

【全体概要】

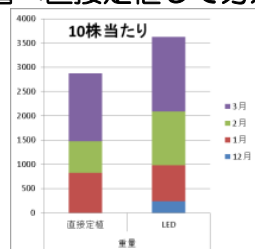
育苗ハウス等の未利用時期(7月頃から3月頃)を有効活用して、種子イチゴ「よつぼし」を用いた栽培を行い、育苗作業の大幅な削減や直接定植など作業労力の軽減を行い、土地利用型など新たな担い手育成に向けた産地振興策を実施。

新品種・新技術等の概要

・JA水稻育苗ハウス未利用時期を有効活用し、水稻と夏秋野菜の複合経営生産者によるイチゴ栽培を実証。



- ・苗は採苗せず、購入苗を栽培槽へ直接定植して労力削減。
- ・栽培槽の架設台は、水稻苗箱を活用。
- ・11月からは訪花昆虫による受粉作業を開始。
- ・1月から本格的に収穫がスタートし、3月末まで栽培。

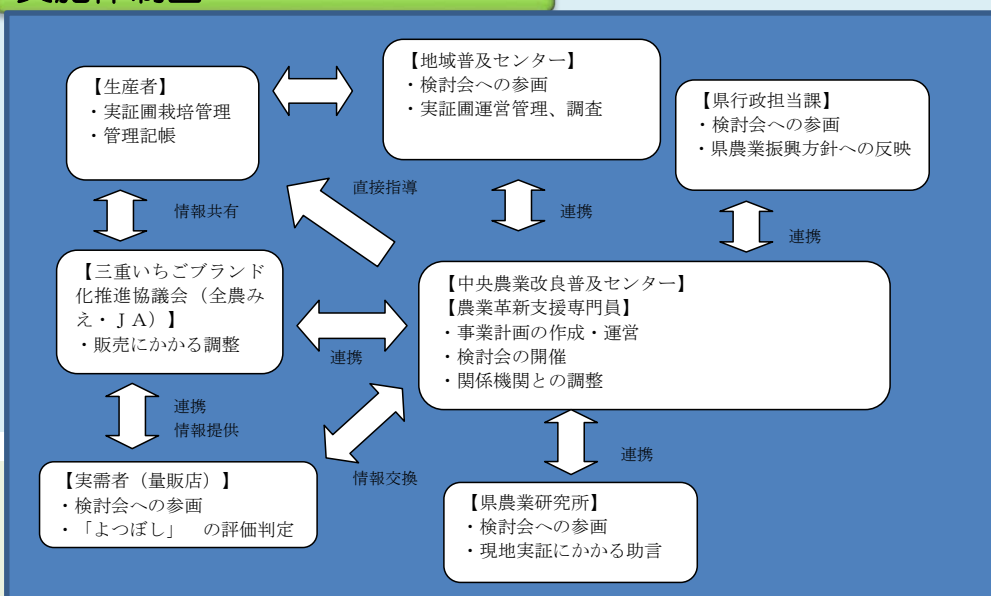


	重量		個数	
	直接定植	LED	直接定植	LED
12月	0	239.2	0	10
1月	828	742.3	47	46
2月	645.9	1109	35	67
3月	1401.6	1536.2	88	108
計	2875.5	3626.7	170	231

主な取組内容

- ・育苗は親株からの採苗方式から、購入苗方式を採用し、育苗作業を大幅削減
- ・本圃直接定植方式を採用
- ・本圃窒素中断により花芽分化誘導
- ・ミツバチに代わる訪花昆虫（ヒロズキンバエ）の利用
- ・LED照明試験の実施など

実施体制図



課題と今後の対応

収穫期間が、3月迄の作型の場合、農業所得を確保するためには、生産量を増やす必要がある。そのため、今回試験的に設置した植物LED照明利用による生育促進や、栽植密度を増加した収量増加対策、種苗費のコスト軽減による経費削減や暖房機の効率運営、高単価市場への販売展開などを検討する必要がある。